

お城だより

No. 8
2006.1.1



写真：福岡城跡：冬の風景

今年も皆様にとつて素晴らしい一年となりますよう
う心からお祈りいたします。

今年も皆様にとつて素晴らしい一年となりますよう
う心からお祈りいたします。

特に、国内旅行では、「大名庭園をめぐる旅」など九州の歴史文化を取り入れた広域観光ルートの開発を進めており、九州各地に残る城跡や歴史遺産なども貴重な観光素材であると認識しております。本県といたしましては、九州観光推進機構と連携し、県内の優れた歴史文化資源を活かした旅行商品の実現に取り組んでまいります。

また、観光振興については、「九州はひとつ」の理念のもと、九州7県と経済界が一体となつて「九州観光推進機構」を設立いたしました。自然、温泉、歴史文化、食など、九州各地の多彩で豊富な観光資源を生かしながら、「観光王国・九州」の実現を目指しております。

昨年、百年の夢、九州国立博物館が開館いたしました。開館以来、地元九州だけでなく、全国から、またアジア各国からもたいへん多くの方においでいただいております。アジアの皆さんとの文化交流をさらに進め、ともに繁栄していくための拠点となりますよう、九州国立博物館をさらに大きく発展させてまいります。



新年あけましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

歴史文化資源と九州観光

福岡県知事 麻生 渡

鴻臚館・福岡城跡 この一年をばねに…



事務局長 岡部 定一郎

うつり変わる乙酉から丙戌へ 変化の年が明け渡りました。

新年明けましておめでとうございます。昨年一年はNPO法人が立ち上り、やっとの思いで大勢の方々のご支援で、私達の日頃から目指している「使命感」に向けて邁進して参りました。本当にお世話になりました。

今、ご覧の様にNPO法人以前の福岡城四百年記念事業の時から連続発行して来た私達の機関誌「お城だより」も八号目となりました。

故桑原市長の筆になるタイトル表紙を飾る「お城だより」もすっかりなじみ毎号の私達の実践の内容を見守って頂いているような気がいたします。

創刊号(二〇〇三・六・二五)から足かけ四年目になる今、ささやかながら一歩一歩、着実に成果を求めてやって来た表情がにじみ出て来ております。巻頭のこゝと市民の手で「福岡城復元を!!」をモットウに「アジアの交流都市ふくおか」の創造を立ち上げよう、と明確に指示して頂いた故桑原会長の言葉を大切に第二号では現市長である山崎広太郎(当会顧問)からもめざす福岡城一帯を福岡市民の歴

史セントラルパークとしての舞鶴公園の緑を歴史の調和ある整備を進めると表示して頂きました。第三号には築城四百年の感慨を黒田長久氏(黒田家十五代当主)より「福岡」の命名の縁にはじまり、天守閣への謎についても語って頂きました。

第四号では当会の副会長中島敏行氏より黒田如水公より歴代の黒田家当主の遺徳を偲びつつ多くの旧家臣団のお世話をして頂いている藤香会より黒田都市サミット開催の件を含め多事多難な現況をのり越えての激励のことばに引き続き、第五号はNPO法人としての新体制に石井幸孝氏が桑原前会長の意志を引きつぎ、前JR九州の社長・会長の重席の体験を生かして新理事長に就任され更に具体的に四つの基本軸を示した大号令に元氣百倍をいたしました。

次の第六号には高倉清子理事(タカクラホテル福岡会長)より女性のお立場から皆の力でまぼろしの天守閣を福岡城

に是非実現をと力強い応援を頂き、前号では当会顧問である福岡商工会議所の田尻英幹会頭から歴史的資源として観光文化都市の中心点となるように巻頭言を頂きました。

この第八号の言葉はご覧のように福岡県知事麻生渡氏より名実ともに県民上げの観光推進・振興への力強いお言葉を頂きました。

この様に本会に対する各方面の方々の思いを大切に、そしてバネの力として平成十八年、様々なプログラムを使命感を持って頑張って参ります。何卒、物心共にご支援の程心よりお願い申し上げます。



"おいしさいつでも25HOUR"



チキン南蛮定食



株式会社黒田屋

本部／福岡市南区花畑4丁目4-1

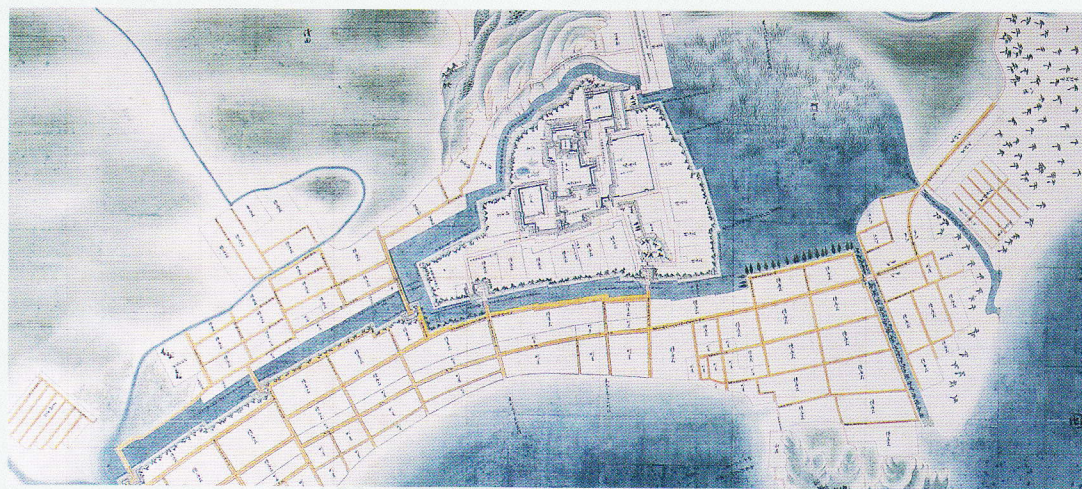
TEL092-565-0247

黒田屋チェーン

- 筑紫野店 筑紫神社前
- 樋井川店 大池通り島廻り橋バス停前
- 新宮店 国道3号線沿
- 春日店 新幹線車両基地横
- 屋形原店 レッドキャベツ屋形原店前
- 原店 室住団地入り口角
- 基山店 国道3号線長野信号横
- 千隈店 国道263号線沿城南郵便局横

福岡城の天守閣をめぐる

福岡市博物館学芸員 高山 英朗



正保三年「福博惣絵図」(福岡市博物館 蔵)

福岡城には天守閣は築かれなかった、というのが今までの通説でした。この背景には福岡藩の正史である『黒田家譜』や『筑前国続風土記』といった地誌類に天守閣が築かれたという記述がないことや、正保三年(六四六)「福博惣絵図」(福岡市博物館所蔵)をはじめとする福岡城を描いた絵図類に天守閣が描かれていないことなどの理由があります。しかし、江戸時代初期の福岡藩関係の史料にも「天守」という文言が記されたものが散見されます。元和六年(六二〇)三月十五日付の細川忠利書状案など細川家関係の史料に黒田長政が福岡城の「天主」を解体している旨の記述が見えることなどから、近年では天守閣の存在を肯定的に考える説が有力になってきています。その一方で、これらの史料にみえる「天守(主)」文言は、寛永十五年(六三八)に解体された天守台周辺の櫓や長屋のことを指している指摘し、やはり天守閣は存在しなかったとする説もあるのが現状です。そこで今回は、寛永十五年の福岡城修復普請を通して福岡城の天守閣について考えてみたいと思います。

幕府との交渉過程を国元に知らせた史料が、九州大学附属図書館六本松分館所蔵の櫓垣文庫に残されています。これらによると城内の櫓や長屋、門、堀などの修復とともに、天守台周辺の櫓や長屋を解体することにも願っていることがわかります。当時、諸大名は寛永十二年六月の武家諸法度第三條の規定により、居城の石垣や土塁を修復する際には老中から許可を得る必要がありました。が、櫓や堀などについては現状に復すのであれば幕府へ願ひ出ることなく修復が行えました。この時、忠之が櫓や門の修復について願ひ出ているのは、黒田騒動直後であるなど対幕府交渉に配慮せざるを得ない状況であったためと考えられます。

さて、願ひ出た内容は幕府から許可されており、天守台周辺の櫓と長屋は解体されたと考えられます。この時の具体的な修復箇所などを記した「御門御櫓等ヶ所付」(春日市教育委員会蔵佐藤恭敏家文書)や、「忠之公御代日記」(福岡市総合図書館寄託小河資料)の記述によると、天守台周辺の櫓・門・長屋を四つ解体したことが知れ、これを裏付けるように前述の「福博惣絵図」では天守台西側の天守付櫓台、中天守台、小天守台に矢倉跡という注記があります。このことから、寛永十五年段階で解体されたのは中天守台や小天守台に築かれた天守台周辺の櫓などであったと考えられ、前述した元和六年三月段階で解体に取り掛かっていたという「天守」は、これらとは別の建物であったと言え、天守閣であった可能性が非常に高いと思われるのです。しかし、これらはあくまでも天守閣の存在を示す状況証拠にすぎず、今後さらなる検討を要すると言えるでしょう。

新規会員名簿 (10/16/1/16入会分)

正会員 (個人)

伊阿 比留 義啓 弘子 森加 藤 芳 子

一般会員 (個人)

辻立田酒小工川小浦今井青
石崎勾林野村倉志泉上柳
博重保俊道瑛秀巨甲康紀豊
子利雄憲雄子樹滋生秀興子
渡水藤福福半野西鍋中富陶
辺摩原田田田島島西澤山
由ちミ洋 玲美道元弘安秀
美ずツ 喜 子子子三弘子子子昭幸央昭

更新会員名簿

正会員更新会員 (個人)

18名

荻岡大大大石石秋秋
野部野塚蔵井竹竹
忠定正京 利幸ヤア
一 子サ
行郎昭子正光孝ヨヨ
吉森宮中藤因筑杉小
田 川島 紫本昌
寿恍 敏金和千清郁
次 之友 樹郎毅行助喜代明子

一般会員更新会員 (個人)

21名

島篠小木鹿楓大大浦井青
野田松下毛 島島上福木
文京史博 泰汐貞周
均子子郎通蔵治子雄介威
吉森前野鶴鶴鶴津鈴下
田瀬田田川川 田木川
二清幸弘隆キ一慶裏久
八 子 郎博江信之工馬一二代

黒田家ゆかりの

秋月探訪バスツアー

11月23日、本年度第5回目のバスツアーである。今回は秋月・三奈木を巡る。バスは補助席まで用いた満席である。

車中で岡部氏より鎌倉あたりからの歴史をお聞きしながら、バスは快晴に恵まれ、秋月街道・千手宿・旧八丁峠を越えて秋月へと向かう。ガイド担当の野田氏の巧みな話術に車内は笑いつつまねながら車窓の景色が流れる。黒田長政公の遺言によって分藩された秋月藩の地は、紅葉鮮やかに旧藩時代を色濃く残していた。古心寺・大涼寺の秋月藩黒田家ゆかりの古寺はさすがである。午後は福岡藩家老であった黒田一成の清岩寺、三奈木黒田家屋敷跡に向かう。やがて復元されるという庭園と屋敷は工事中。帰路は野田氏が推薦のギンギラギラの夕日を高速道路から見ることができた。晩秋の日は短く天神に到着したときはもう夜のイルミが点滅していた。(荻野記)



平成十七年度
「黒田家ゆかりの史跡探訪」

バスツアー参加者数は延べ二百四十四名。三月黒田孝高と長政親子の豊前時代四十二名・四月若松城と黒崎城三十三名・五月鷹取城と益富城四十三名・十月松尾城と左右良城四十二名・十一月秋月藩と三奈木黒田家四十四名・十二月直方藩と飯塚宿四十二名。十八年度はこの史跡探訪に長崎街道・筑前六宿も入れていく予定です。
ご期待ください。(野田記)

「鴻臚館・福岡城を問う!」
シンポジウムのお知らせ

学術部では、下記の内容で新春早々シンポジウムをします。会員皆さんの参加をお願いします。

『鴻臚館・福岡城を問う!』
第一回「筑紫館と福岡城下の橋大手門」
福岡城跡は古代万葉の時代は「筑紫館」(後の鴻臚館)がありました。現在、その二つとも国史跡指定地となっているという日本でも希有な場所です。今回は二人の講師を

お招きします。また、石田耕古画伯の「福岡城上の橋大手門」画を鑑賞し、「福岡市埋蔵文化調査報告書第七二集」と比較検討を行います。

平成十八年二月四日(土)
午後一時から
一、場所
読売新聞西部本社
「よみうりプラザ」
(定員百四十名。先着順)

二、参加費
会員五百円(資料代他含む)
一般千円(資料代他含む)

三、講師
●鶴 久氏
(福岡県立女子大学名誉教授)

「古代日本語及び筑紫館での万葉仮名和歌について」
●榎本 義嗣氏
(福岡市教育委員会文化財整備課)

「福岡城下の橋大手門復元工事の現状と完成時の見通し」
●荻野 忠行氏
(市民の会学術部長)

「石田耕古画伯の「福岡城上

編集後記

あけましておめでとうござい
ます。二年目の新春を迎え、お城だよりNo.8をおとけします。昨年、船出一年目は、皆様のご協力ご支援のもとに満足のいく活動ができたように思っております。これからも活動の課題は山積みですが、まず「市民の会」を

の橋大手門」絵画と「福岡市埋蔵文化調査報告書第七二集」との比較検討。
その後、下の橋大手門工事現場移動見学と現地説明。



(当日展示) 石田耕古 画「大手門」



知ってもらったことが一番。中でも若い次世代の方々にいかにして興味を持ってもらうのか? また、街づくり、都市づくりなど同じ夢を持つグループとの交流もぜひ、実現させたいテーマ。今年はそのための良い知恵比べの年になりそうです。事務局員一同、新たな気持ちで、より一層の努力をして参りたいと存じます。ご指導いただきますようお願いいたします。

福岡 **しんきん**

福岡信用金庫

本店／福岡市中央区天神1丁目6番8号 天神ツインビル
Tel.751-4731
URL <http://www.fukuoka-shinkin.co.jp>

この街と
生きていく。



地域の皆様の力になります。